

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 子ども・子育て支援体制について (40分)</p> <p>子ども・子育て支援法の制定を受けて、地方自治体で「子ども・子育て会議」の設置を始めています。地方での設置は、法律上の努力義務ですが、計画策定にあたり、子育て当事者や支援者等が参画・関与できる仕組みの一つとして重要な機関であるといえます。</p> <p>「子ども子育て支援制度」は、親の働く状況の違いにかかわらず、質の高い幼児期の保育を受けられるようにすることを社会的課題としています。しかし、在宅で子育てをしている家庭にとっては、利用支援、地域子育て支援拠点、一時預かり等を含む「地域子ども・子育て支援事業」への取り組みも大きな関心事です。</p> <p>8月30日、政府は子ども・子育て会議の基準検討部会を開き、平成26年度から新たに始まる「小規模保育」の認可基準をまとめたことが報道されました。</p> <p>核家族や高齢化、また、地域での人間関係の希薄化などにより、低下してきたといわれている家庭や地域での子育て力の解決策としても議論されています。</p> <p>新たな制度となる地域型保育事業としての小規模保育が、子育て環境の充実したまちづくりに活かせるのではないかという視点から以下の質問をいたします。</p> <p>(1) 小規模保育事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 新制度における小規模保育事業の位置づけ イ 家庭保育室との違いは ウ 当市の保育実態に鑑みての活用について <p>(2) 潜在的な保育希望について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 潜在的な保育希望の実態について イ 潜在的な就業希望の実態について <p>(3) 鶴ヶ島市子ども・子育て支援協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 鶴ヶ島市子ども・子育て支援協議会の位置づけ イ 児童福祉・子育て支援を進めていく上での課題について 	市長

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>2 プレーパークの持つ可能性 (20分)</p> <p>子どもたちをとりまく状況は、1965年を境にして大きく変わったといわれています。都市部で、それ以前のような原っぱや空き地が消え、子どもたちの放課後は、塾やお稽古事がスタンダードとなりました。「室内あそび」と「戸外あそび」の時間の逆転です。それ以前は“ガキ大将”を筆頭とする異年齢集団の中で子どもは遊び、上の子が下の子の面倒を見るという人間関係を経験することができていました。</p> <p>しかし、現在の生活環境の中では、人間関係を育む「友人」や「仲間」を無くし、生きる上で大切な「人間形成力」を創造出来なくなっているのではないかと危惧されます。</p> <p>昨年から、第二小学校の校庭や学童保育室つばきやまクラブの庭、藤金市民の森等で開催されているプレーパークは、自分たちのアイデアとスタイルで楽しみ、発見や創造する喜びを味わえる、子どもたちの自由な遊びの世界を、住民たちで取り戻そうという運動です。</p> <p>豊かな遊び環境は、地域社会の価値といえます。子どもを中心とするさまざまな広がり期待できる活動として、今後の展開について市の方向性をうかがいます。</p> <p>(1) 鶴ヶ島市の子どもたちの生活環境について ア 「室内あそび」と「戸外あそび」の時間は イ 子どもたちの人間形成力を高めるための施策は</p> <p>(2) 地域の子育て事業としての可能性について ア 地域の子育て事業としての視点について イ 鶴ヶ島市と住民の協働の方向性について</p>	<p>市長 教育委員会委員長</p>